

「おこづかい」について考える
～ママ FP のひとりごと⑧～

ファイナンシャルプランナー 鈴木さや子

子どもの頃、「おこづかい」ってとても嬉しかったですよね。私はおこづかい帳の残高を眺めて、欲しい文房具や雑貨を想像しては、にんまりするような子どもでした。

子どもができ、いざ自分があげる立場になってみると、「おこづかい」のあげ方ってさっぱりわからないものではないでしょうか。実際私も「おこづかい」に関しては、試行錯誤を繰り返しやっとながら我が家のスタイルが定着してきたところです。そして最近ではママたちから、多くの質問を受けるようになりました。中には、周りの友達のやり方を真似するだけでいいのだろうかと思悩むママもいます。

仕方ありません。だって誰も「おこづかいの正しいあげ方」を習ったことがないからです。

一体「おこづかい」は、どのように考えていけばよいのでしょうか。今回は、「おこづかい」に関する私の考えと、ママから受ける質問を Q&A 形式にして紹介致します。

1. 「おこづかい」について考える

我が家では、長女が幼稚園年長の頃から「おこづかい」をあげています。色々な方法を検討した結果、現在は、お手伝いをした分だけあげる「歩合制」と、決まったお金をあげる「定額制」をミックスして渡しています。「おこづかい」をあげて良かった、と実感したことは、次の4点です。

【「おこづかい」をあげてよかったこと】

- 「お金」そのものの価値がわかるようになったこと
- 子どもが「あれ買って」とダダをこねなくなったこと
- 物の大切さがわかるようになったこと
- 親子の会話が増えたこと

そして私は「おこづかい」を通じて、次の3点を子どもたちに伝えてあげたいなあと考えています。

- お金は「貯める」「殖やす」ことが目的ではなく「人生を豊かに過ごす」ための道具であること
- お金は「無限」ではないこと
- お金は「働いてもらえるもの」だということ

「おこづかい」も、まわりのお友達がもらい始めたからうちの子も・・・と漫然とあげるのではなく、「なぜあげるのか」「我が子にどうなって欲しいのか」と考えて、ポリシーをもってあげるのが大切だと思います。

2. 「おこづかい」に関するQ&A

ママたちからよく受ける質問と、私の回答をまとめてみました。「おこづかい」のあげ方は、子ども

の性格や親の性格、まわりの環境などによって千差万別。この方法が正しいのだ！という決まりはありません。すべてを鵜呑みにするのではなく、ぜひご自身の環境に合わせた方法を探していただきたく思います。

■ほかの家庭ではどのくらいあげているの？

最も訊かれるのがこの質問です。やはりまわりの動向が気になるものですね。

今や小学生の約8割がもらっている「おこづかい」。そこで、小学生に絞って、金融広報中央委員会の調査結果(※)から、一般的なデータを紹介します。

【おこづかいをあげる頻度】

学年	週に1回	月に1回	ときどき	その他
1・2年生	9.2%	13.2%	58.5%	19.1%
3・4年生	8.0%	34.3%	43.9%	13.8%
5・6年生	5.7%	52.2%	30.6%	11.5%

高学年になるにつれて、週に1回から月に1回と「おこづかい」をあげる頻度を減らす家庭が多いようです。頻度が高いとあげるのを忘れてしまうなど管理が面倒であることと、年齢とともに子どもがお金を管理できる（或いは管理したくなる）ようになること、が主な理由と考えられます。

【おこづかいの1回あたりの金額】

小学生にあげる頻度として多かった「月に1回」「ときどき」について、1回あたりの金額を見てみましょう。

頻度	月に1回			ときどき			
	学年	1・2年生	3・4年生	5・6年生	1・2年生	3・4年生	5・6年生
平均の金額		949円	896円	1,087円	689円	847円	1,174円
中央の金額(※)		400円	500円	1,000円	100円	300円	500円

(※)中央の金額：全金額を並べた時の、真ん中にある金額です。平均の金額とは異なります。

(※) 金融広報中央委員会『子どものくらしとお金に関する調査(H22年度)』より筆者作成

小学生にあげる「おこづかい」の金額の目安として、月額「学年×100円」ということがよく言われるのですが、実際には、月額ではなく「ときどき」あげる「おこづかい」に、この金額が反映されているのが興味深いところです。「ときどき」が月に何度あるかわからないので、結果的に月額が高額になっているケースもあるかと思えます。

■いつから「おこづかい」ってあげたらいいの？

子どもが「お金に興味を示した時」がタイミングだと思っています。ただ、「おこづかい」のあげ方に関して、親がしっかりとポリシーをもつことが大切。金額が異なったり、同じお手伝いをしたのに、あげたりあげなかったり、と親の行動がぶれると、逆効果です。

■「おこづかい」はどうやって使わせればいいの？

「おこづかい」をもらったら、使ってみたいのが子どもです。その時は「貯めなきゃだめでしょ」と

言わずに、ぜひ一緒に買い物に行ってみましょう。買い物の時には、子どもと「ずっと大事に使えるものを買おうね」と約束を交わして、じっくり考えさせることが大切です。この繰り返して「本当に大切なものは何か」ということを、小さいなりに一生懸命考えるようになるのです。

■おじいちゃん、おばあちゃんが何でも買ってくれる

おじいちゃん、おばあちゃんの性格や親との関係などにもよるので、あくまで理想論となりますが、やはり、闇雲に何でも買ってあげる行為はやめて欲しいことを、やんわりと言いたいものですね。ただし祖父母の「あげたい」という気持ちを尊重するのも大切。お誕生日やクリスマスなどの記念日だけにする・金額の上限を決めるなどのルールを決めてお願いしてしまうのも手かと思います。子どもと一番接しているのは、原則は両親です。両親の考えがぶれなければ、どんな環境にあっても、子どもにきちんと「お金の教育」はできると考えています。

■テストができたからといってご褒美におこづかいってあり？

勉強のモチベーションをあげるために「おこづかいあげるからテスト頑張て！」とも親としては言いたくなる時がありますよね。でも、これでは「おこづかいをもらうために勉強する」ということにもなりかねません。「おこづかい」はあくまで「労働の対価」と教えたいため。テストができた時のご褒美は、美味しい物を食べさせてあげたり、行きたいところに連れて行ったりと、「お金」ではなく、「体験」であげたいと考えています。

3. 「おこづかい」のあげ方について家族で話し合おう

前述したように、「おこづかい」のあげ方は、子どもの性格や親の性格、まわりの環境などによって千差万別。まずはあげる前に夫婦で我が子にあう方法を話し合ってみましょう。夫婦で方向性が固まったら、「まだ小さいからよくわからないのでは」と決めずに、子どもにも説明することが大切です。お金のことを小さい頃からオープンに話すことで、上手にお金と付き合える子どもに育つのではないかと考えています。

すでに「おこづかい」をあげているご家庭も、今一度その目的を確認して、ぜひ「おこづかい」を最大限に活用して、ご家庭でのマネー教育に役立てて下さい。

「おこづかい」もあげ方によって、子どもに悪影響を与えることも少なくありません。学校では教えてくれない「お金とのつきあい方」はぜひご家庭で教えてあげたいものですね。

《今月のお気に入り曲》
幻想交響曲／ベルリオーズ作曲

作曲者自身の恋愛をモチーフにした曲。情熱的・牧歌的・荒々しい曲調がかわるがわる登場し、観客を飽きさせない名曲。演奏者にとっても魅力の大きな曲です。